

堺 アルフォンス・ミュシャ館 企画展 イラストレーション ミュシャとアール・ヌーヴォーの挿絵を開催します

堺 アルフォンス・ミュシャ館では、企画展「イラストレーション ミュシャとアール・ヌーヴォーの挿絵」を以下のとおり開催します。

ミュシャの画家としてのデビューは挿絵（フランス語で「イラストレーション」）の仕事から始まります。ミュシャはポスター画家としてパリで一世を風靡する前から、書籍や雑誌の挿絵を描くことで生計を立てていました。その後、売れっ子の画家になってからも挿絵を描き続け、生涯に250冊以上の書籍や雑誌に挿絵や作品が掲載されました。

本展では、ミュシャが挿絵から装丁までを手がけた書籍をはじめ、同時代のアール・ヌーヴォーの美しい挿絵本、さらにミュシャの後半生の大作とそれに関連する挿絵作品もご紹介します。

なお、見どころや展示構成、関連イベントなど詳細については別紙をご覧ください。

1 展示会名

企画展「イラストレーション ミュシャとアール・ヌーヴォーの挿絵」

2 日時

令和6年4月6日（土）～令和6年7月28日（日）

開館時間：午前9時30分～午後5時15分

（入館は午後4時30分まで）

休館日：月曜日、休日の翌日（5月7日、7月16日）

※ただし、4月29・30日、5月6日、7月15日は開館



『トリポリの姫君イルゼ』

（仏語版）〈挿絵〉

3 場所

堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館）（堺市堺区田出井町 1-2-200 ヘルマージュ堺式番館）

最寄駅：JR 阪和線「堺市」駅

4 観覧料

一般 510 円（410 円）、高校・大学生 310 円（250 円）、小・中学生 100 円（80 円）

*（ ）は20人以上100人未満の団体料金。

【アルフォンス・ミュシャについて】

19 世紀末のパリで一躍人気のポスター作家として才能を開花させたアルフォンス・ミュシャ（1860-1939）は、芸術様式アール・ヌーヴォーを代表する画家として広く知られています。

ミュシャのポスター作家としての成功は、稀代の女優サラ・ベルナール（1844-1923）との出会いにより、彼の名がパリ中に広まったことがきっかけです。

1900 年のパリ万国博覧会への出展を経て、後年には祖国チェコへの芸術的貢献を願い、大連作《スラヴ叙事詩》をはじめ、チェコの独立と平和を願った油彩画などを制作しました。

【堺市とミュシャの関連について】

堺 アルフォンス・ミュシャ館が所蔵するミュシャとその関連作家の作品約 500 点は株式会社ドイの創業者、土居 君雄氏（1926-1990）が収集を基にしたものです。土居氏の没後に遺族によって堺市に寄贈されました。コレクションは、ミュシャのポスターや油彩画、素描や宝飾品など、世界有数を誇る体系的な作品で構成されています。

堺 アルフォンス・ミュシャ館では、ミュシャの初期から晩年期にまでわたる作品を展示し、様々なテーマでその創作活動を紹介しています。

また、堺で生まれ育った情熱の歌人・与謝野晶子は、明治浪漫主義の文芸誌『明星』で活躍しました。『明星』の誌面では、ミュシャは「ムッカ氏」という名前で紹介されており、ミュシャの作品を思わせる挿絵が日本人画家によって描かれています。ミュシャは堺市にとって大変縁のある画家と言えます。

問 い 合 わ せ 先	（企画展について） 担 当：公益財団法人堺市文化振興財団 堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館） 電 話：072-222-7227 ファックス：072-222-6116
	（本市の文化振興について） 担 当 課：文化観光局 文化国際部 文化課 電 話：072-228-7143 ファックス：072-228-8174

企画展
イリュストラシオンミュシャとアール・ヌーヴォーの挿絵
Illustration: The Drawings of Mucha and Art Nouveau

2024年4月6日（土）— 2024年7月28日（日）

華麗なる19世紀末フランスの挿絵世界

概要

「イリュストラシオン」とはフランス語で「挿絵」を意味します。

ミュシャは生涯に250冊以上の書籍や雑誌に挿絵や作品が掲載されました。彼の画家としてのデビューは挿絵の仕事から。ポスター画家としてパリで一世を風靡する前から書籍や雑誌の挿絵を描くことで生計を立て、その後、売れっ子の画家になってからも挿絵を描き続けました。

ミュシャが挿絵から装丁までを手がけた書籍をはじめ、同時代のアール・ヌーヴォーの美しい挿絵本、さらにミュシャの後半生の大作とそれに関連する挿絵作品もご紹介します。初期から円熟期に至るミュシャとアール・ヌーヴォーの挿絵の世界をご堪能ください。

展覧会名 企画展「イリュストラシオン ミュシャとアール・ヌーヴォーの挿絵」

会期 2024年4月6日(土)から2024年7月28日(日)まで

会場 堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館）

開館時間 午前9時30分から午後5時15分(入館は午後4時30分まで)

休館日 月曜日、休日の翌日（5月7日・7月16日）
* ただし4月29日・4月30日・5月6日・7月15日は開館観覧料 一般510円(410円)、高校・大学生310円(250円)、小・中学生100円(80円)
*()は20人以上100人未満の団体料金

主催 公益財団法人堺市文化振興財団、堺 アルフォンス・ミュシャ館

後援 在堺チェコ共和国名誉領事館

協力 青山学院大学図書館、町田市立国際版画美術館、OGATAコレクション

お問合せ 堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館） 担当：川口、原田、高原
〒590-0014 大阪府堺市堺区田出井町1-2-200 ベルマージュ堺式番館
TEL) 072-222-7227 FAX) 072-222-6116
E-mail) mucha@sakai-bunshin.com <https://mucha.sakai-bunshin.com>

HP▶



見どころ

①ミュシャの挿絵とポスターのつながり

ミュシャのポスターの代名詞でもある優雅な女性像。彼女たちのS字を描く曲線的なポーズや背後を飾る円環モチーフ等、人気作品の源泉を挿絵から辿ります。

②『白い象の伝説』挿絵下絵の原画全20点を展示

19世紀末フランスの児童書『白い象の伝説』。
肉筆の挿絵でミュシャの繊細な描写や筆遣いを直に感じられます。

③ミュシャ、そして同時代のアール・ヌーヴォーの挿絵

ミュシャによるアール・ヌーヴォーの挿絵の極致とも言える書籍『トリポリの姫君イルゼ』等をご紹介します。ウジェーヌ・グラッセやモーリス・ブーテ＝ド＝モンヴェルら同時代の画家たちの書籍も展示します。

④ミュシャが画家として目指したゴールとは？

ミュシャの挿絵と後年の作品との関連性をご紹介します。
意欲作『主の祈り』と幅約4.5メートルにもなる油彩大作《ハーモニー》のつながり等に注目します。

同時開催

ミュシャとアール・ヌーヴォーの部屋

3F展示室ではミュシャの代名詞である華やかな女性像の装飾パネル（レプリカ）を一堂に展示。ミュシャに関する書籍の閲覧、また作品の見どころ解説やパーツ遊びが楽しめるデジタルコンテンツもあります。アンティーク家具の空間でアール・ヌーヴォーの雰囲気をお楽しみください。

**ミュシャ アニバーサリー企画**

ミュシャ(1860-1939)は、7月24日に生まれ、80歳を目前にした7月14日にこの世を去りました。これを記念して会期中の7月13日(土)～24日(水)の間、ミュシャのアニバーサリー企画を開催します。詳細は決まり次第当館HPにてお知らせ予定です。

関連
イベント**①メモ帳づくりワークショップ**

ミュシャのデザインを表紙に使ったオリジナルのメモ帳を手づくりします。書物の歴史や本の修復についてもお話しいたします。

日時：2024年5月12日（日）13:00～15:30

講師：大喜多真子氏（NPO法人 書物の歴史と保存修復に関する研究会）

定員：20名（申込先着順、受付開始4月13日(土)）

対象：小学生以上（小学生は保護者の同伴必須）

参加費：1,100円（材料費）

②学芸員によるスライド・トーク

本展担当学芸員が本展の見どころをスライドでレクチャーします。

日時：2024年4月21日（日）、6月15日（土）、7月6日（土） 各日14:00～（30分程度）

定員：各回50名（申込不要、当日先着順）

参加費：無料

※①②ともに参加には本展会期中の観覧券（半券可）の提示が必要です。

※イベントの内容や開催時期、申込方法などの詳細は、堺 アルフォンス・ミュシャ館ホームページをご覧ください。

※別途「学芸員による解説ツアー」も実施予定。

ホームページは随時更新します。



※画像はイメージです。

お問合せ

堺 アルフォンス・ミュシャ館（堺市立文化館） 担当：川口、原田、高原
〒590-0014 大阪府堺市堺区田出井町1-2-200 ベルマージュ堺式番館
TEL) 072-222-7227 FAX) 072-222-6116
E-mail) mucha@sakai-bunshin.com <https://mucha.sakai-bunshin.com>

HP▶

